

## 一般質問

山口  
議員

- 一、福島町における今後の道路計画について  
二、環太平洋経済連携協定(TPP)について

## 質問

一、(1)福島県の県道の里工区分が昨年暮れに完成した。未整備区間の計画は、県より説明があっているか。  
(2)市道平野半島線が22年度完成と聞いているが、いまだに工事がされていない。今後の予定はどうか。

(3)住民が最優先に整備を望んでいる中学校周辺のバス巡回道路は、平野半島線完了後実施すると以前答弁されている。早期着工を願うが、今後の改良工事はどうか。

(4)昨年12月に過疎地域促進計画が示された。計画に載っていない道路の整備は、どう進めていくのか。

二、昨年10月、菅首相が突如TPP参加の検討を示された。想像を絶するような大規模経営の農業大国である米国とオーストラリアを含む9カ国が参加をしている。例外なき関税廃止に向けた協定である。零細農家が主流の日本農業は、ひとたまりもなく壊滅的な打撃を受け、農地の荒廃が進む。

(1)松浦市の影響はどの位あるのか。  
(2)松浦の現状を見た時、参加反対の態度を示してよいのではないか。

## 答弁

一、(1)引き続き未整備区間の改良に着手するよう県に要望書を提出しています。今後のスケジュールとしては、要望した箇所の測量設計を23年度に着手する予定と聞いております。  
(2)平野半島線の改良工事は、22年度予算で改良工事160メートル、舗装工事260メートルを予定しています。  
(3)平野半島線の完了後に市道塩浜里線に着手する予定としておりましたが、国民宿舎つばき荘の改築に伴い、23年度において急遽市道つばき線の改良が必要となったため、24年度に着手したいと考えています。  
(4)計画に入っていないくても安全の確保、利便性ということから臨機応変な対策を講じてまいります。  
二、(1)農業では、生産額38億8千万円が17億7千万円となり、54%ほど減少すると試算しています。漁業では、沿岸で漁獲されます生鮮食用の魚などは競争力があり影響は少なく、加工用の魚については、輸入品によって影響があると考えます。  
(2)基本的には、松浦における産業構造ということからみて反対の考え方を持っています。

## 一般質問

尾野  
議員

- 一、市内に存在する橋梁の今後の修繕計画について  
二、公営住宅内の駐車場について

## 質問

一、国交省の資料によると、平成21年4月時点で全国には長さ15メートル以上の橋が約15万本あると言われています。そのうち自治体が管理する橋は、建設から50年以上経過するものが約9%、その割合は10年後には27%、20年後には54%と予想されている。このように急速に進むであろう橋の老朽化は、松浦市についても同様に懸念される。

(1)松浦市において、国道、県道、市道及び農林道に架かる橋は幾らあるのか。一番古い橋は、何年くらい経過しているのか。

(2)国交省は、地方自治体が橋の修繕計画を策定する際に係る費用の半分に對して、国が負担する制度を平成19年度にスタートさせた。老朽化した橋について、その実態把握はされているか。

二、公営住宅の駐車場に設置基準はあるのか。高野団地を一例にあげると、車庫証明は発行できないのか。できないならば、その理由と根拠はあるのか。また、車庫証明の発行について、今後前向きに検討、研究する考えはあるか。

## 答弁

一、(1)平成22年4月現在、市内において長崎県が管理するものが、国道204号で19橋、主要地方道で16橋、一般県道で21橋です。市が管理するのが、市道で206橋、農道で8橋、林道で5橋です。最も架設年次が古い橋は、今福町の市道今福浦線にかかると、架設後105年を経過しております。  
(2)全206橋の概略点検を実施した結果、資料に基づき判明した中で、架設後の供用年数を10年単位で見ますと、不明の88橋を除いて、10年未満が6橋、10年から19年が14橋、20年から29年が29橋、30年から39年が40橋、40年から49年が20橋、50年以上が9橋となっています。また架設年次が不明な橋梁の多くは、相当の年月が経過しているものと考えられます。  
二、高野団地に限らず駐車台数が戸数分なく、建設当初の過程から来客用の駐車場という位置づけがされており、全戸分の駐車場の確保や駐車料金をどうするかということも含めて、まずは駐車場の整備について検討してまいります。